

**第6回湘南交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会  
議 事 概 要**

平成 24 年 12 月 11 日 (火)  
14:00~16:00  
鎌倉商工会議所

**1. 開会**

**2. 「湘南交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会設置要綱」の一部改正**

～ 案のとおり承認され、神奈川運輸支局長大蔵幸雄が会長に選任された。～

会長：

タクシーの特定地域については本年 9 月末で指定期間満了を迎えたが、まだ指定を解除する状況にないという判断がされ、平成 27 年 9 月 30 日まで再指定された。今回は一つの区切りとして、3 年間の取組を検証した上でタクシーが公共交通機関として十分な機能を発揮できるよう、今後の取組の方向性についてご議論頂き、地域計画の一部改正を行いたい。

**3. 議事**

(1) タクシー事業の適正化・活性化に係る 3 年間の取組の検証

～ 「タクシー事業の適正化・活性化に係る 3 年間の取組の検証」について、事務局より説明 ～

委員（法人タクシー代表）：

適正化は、正直なところ膠着状態に陥っている。湘南交通圏においては 10 台程度の小規模の事業者があり、仮に 11 台の事業者が 2 台減らすといきなり 15%強の減車率となり大きな変化が生じる。パーセンテージでいうのは簡単だが 1.5 台という減らし方は出来ないので事業の継続に影響をきたすほどの減休車率になってしまうケースもある。又、経営状況の理由から適正化に全く協力のできない可能性もあるし、減休車を全く実施しない事業者も 1 社ある。

労働条件に影響を与える日車営収は若干の回復の兆しが見られる中、活性化事業も実施しており、目に見える取組として、環境面への取組みである EV タクシーや HV タクシーの導入、高齢化率の高い鎌倉地域においては福祉車両や新たなユニバーサルデザインタクシー（以下、UD タクシーという。）の導入を進め、高齢者や障害者さらには子育て支援といった部分に対してサービス提供・向上を図っている。

先般、総合交通ネットワークの一員として UD タクシーを含む福祉タクシーの導入について鎌倉市に協力いただき、協議会を設立し、地域計画が今週策定される運びとなった。今後、平成 24 年・25 年年度で全体の 3%、UD タクシー等を含んだ福祉車両の供給力が確保される予定となっている。

又、協会主催のバリアフリー研修、これは車両というハードの部分ではなくソフトの部分であり介助介護を含むスキル習得、接客サービスに関する一日研修であり既に 10 名が受講済みであり、車両だけではなく

スキルをもった乗務員の養成も努力をしているところ。

その他、特定事業として認定された事業は順調に推進している。

委員（鎌倉市）：

「住友常磐住宅地・乗合タクシーの社会実験」の説明をさせていただく。

この住宅地は、急な上り坂で多くの住民は交通不便感じており、その解消を図る為に自治会と市で昨年の8月より勉強会を開始した。その中で乗合タクシーの検討が始まり、本年10月に自治会の費用で社会実験を実施することとなった。経路は一般の乗用車タイプのタクシーを利用し、往路は住宅地内から鎌倉駅西口、復路は鎌倉市役所構内から住宅地内の区間で実施した。

運賃は片道250円、未就学児が無料で、実費運賃（メーター運賃）との差額は後日タクシー事業者から自治会へ請求する。1週間で27台50人、1台あたり乗車人数は1.9人となった。今後は自治会において社会実験に対するアンケートを実施した後、自治会および市で評価検討を行い利用システムの変更も視野にいたした上で本格実施を目指して取り組んでいく予定となっている。今回、社会実験に協力頂いたグリーンハイヤー（株）および鎌倉江ノ島ハイヤー（株）にこの場をお借りしてお礼を申しあげる。

委員（鎌倉商工会議所）：

鎌倉市の平成23年の観光客数が1811万人。前年度対比で138万人減（-7.1%）となっている。東日本大震災の影響で計画停電が実施され電車が動かなかったこと、花火大会が中止になったこと、天候不順によって海水浴客がかなり減少したこと等が影響していると報告書では示されている。

鎌倉市観光商工課が出した23年度の観光客の満足度調査において75.4%の観光客が鎌倉を大変満足、やや満足と回答している。満足度の低い項目は、公衆トイレの問題、観光施設や飲食店、市内交通機関、移動のしやすさとなっている。

こういった調査は商工会議所でも実施しており、平成20年から22年まで3年間、観光客に直接インタビューした結果とほぼ同じで交通渋滞や公共交通機関の問題というものが話題に上がっている。この結果からも交通渋滞の問題、駐車場の問題等を改善していく必要があると思う。

特に交通渋滞等については、タクシーの数が抑制されるのも必要なのかもしれないが、一般車両を電車やバスに振り替えていくこと等を本格的に行政が考えていかなければならないと思っている。

また、外国人の受け入れについては、市も施策を開始しており、商工会議所もそのプロジェクトに人を送っているが、バスのルート別にナンバーを表示して分かりやすくすることを実施している。タクシーにはそういった話がないが、バス同様に分かりやすい表示は必要ではないか。また、外国人利用にあたって乗車中にルート表示についてアナウンスも必要である。

会議所としても、外国人観光客を受け入れるためのおもてなしとしていろいろなサービスを行うため、タクシー事業者含め一般のお店の事業者の方々を対象に「鎌倉おもてなしコンシェルジュ」という特に質の高いおもてなしができるようリーダー格の養成を今年から始めた。タクシー事業者にもそういった人間を育ててもらえれば良いと思うし、鎌倉歴史の観光案内に役立ててもらう為に「鎌倉検定」も実施している。鎌倉検定はすでにタクシーの会社でかなりの数の方が受検し、資格を取得しているので、そういうものも売りにしてもらえれば嬉しいと思う。観光客がどれだけそういうタクシーを利用するかは定かではないが、鎌倉の歴史がよく分かっている運転手に案内してもらおうのとそうではないのでは大分違うと思うし、先日、鎌倉検定を実施したが、開始から6年経つが相変わらず中高年の応募が多く、まだまだ鎌倉の歴史に対する要望は高いので、そういうものを売りにして案内することも一つの手だろうと思う。

それから、先ほど乗合タクシーというのがあったが、個人的には鎌倉の人は乗合タクシーをあまり好まないと思っている。ドア・ツー・ドア、重たい物を持って自宅まで足が届く、鎌倉の場合は坂が非常にきつい、停留所まで行ける元気なお年寄りが良いが行けない人はやはりドア・ツー・ドア、またそれがタクシーだと思っている方が多いと思う。

タクシーでなければ出来ないことを行ってもらえれば我々利用者の立場からは大変ありがたい。減車により必要なときに来てもらえないよりは利用者にとってはある程度の台数があった方がありがたい。もともとタクシーを増やしたのは国の施策であり、なかなか難しいと思うが色々知恵の出どころはあると思っている。

委員（労働者代表）：

運転手の立場から活性化について考えると、タクシー運転手の意識改革が非常に大事なことだと思っている。二種免許さえ持てばタクシー運転手という職業に就けるという認識がまだまだあるが、もう少し高いレベルの勉強をしていかないとタクシー運転手のレベルが上がっていかない。レベルが上がらないということはこの職業に対する社会的認知が上がらないということになる。社会的認知度が上がっていかないことは、所得が上がってこないことに繋がると思う。

これではやはり良くなっていかないと思う。現場でも組合という立場で組合員の意識改革を積極的に実施しようと考えて、細かいところから努力はしているが、この問題は労働者のみならず、労使間でも考えていかないといけないし、また行政の側面からの支援も必要。

例えば二種免許の新規取得時だけではなく、更新のときでも勉強をする機会を与える。あるいは、何かしらのペナルティーを受けた場合、事故、違反等あった時には公的な機関による研修で意識を改革させていくチャンスを与える。そういった機関の設置が望ましいと思う。

もう一点は高齢化。健康診断はしっかりと実施されているが、フィジカルと併せてメンタル部分への対応がこれからの高齢化に向かって重要と思っている。メンタルヘルスの部分で行政からのケア、あるいは業界団体でのシステム等を構築しないと、いずれ高齢化の弊害が起きてくるような気がしている。

会長：

適正化・活性化に3年間取り組んできた結果、一定の効果は認められるところではあるが、まだまだタクシー諸問題の解決には至っておらず、引き続き適正化・活性化に取り組む必要があるということを総括とさせて頂く。

## （2）今後の取組の方向性

～ 今後の取組の方向性及び地域計画改正（案）について、事務局より説明 ～

委員（鎌倉市）：

今後の取組の方向性の一つの総合交通ネットワークの一員としての機能向上に関して、行政としてもタクシーを公共交通として活用を検討している。今後もいろいろな場所で社会実験を実施し本格運行を目指すことを考えているが、国の補助制度を活用できるような制度を検討してほしい。

事務局：

補助メニューは用意している。制度的な制約があるので、該当するかは分からないが相談いただければと思う。

委員（神奈川県）：

総合交通ネットワークの一員に関連して、湘南地区ではないが県西地区では路線バス撤退後の地域の足を守るという観点でタクシー事業者の力を借りて鎌倉市で行ったような実験を実施する計画があると聞いている。是非、そういった事業への協力をお願いしたい。

環境面では、神奈川県環境部局の所管となるが、流しでは効率の悪いEVタクシーを呼び出して利用する際に700円のクーポンを使用できるというキャンペーンについて本日、記者発表があった。引き続きEVタクシープロジェクトにご協力いただければと思う。

適正化については、4交通圏とも10%程度の減車率と言うことで、各企業のそれぞれの考えがあり一定のラインで限界があったとしか捉えられないが、いずれにしても引き続き適正化・活性化に継続して取り組んでいただければと思う。

会長：

湘南交通圏においては、依然としてタクシーを取り巻く環境が厳しく、解決すべき諸問題が存在していることから、タクシーが地域の公共交通機関としての役割を果たしていくため、引き続き適正化を進めることを前提に、活性化についても重点事項を絞って力をいれていくという方向で取り組むこととしたい。

～ 地域計画改正について案のとおり承認された。 ～

### 3. 閉会